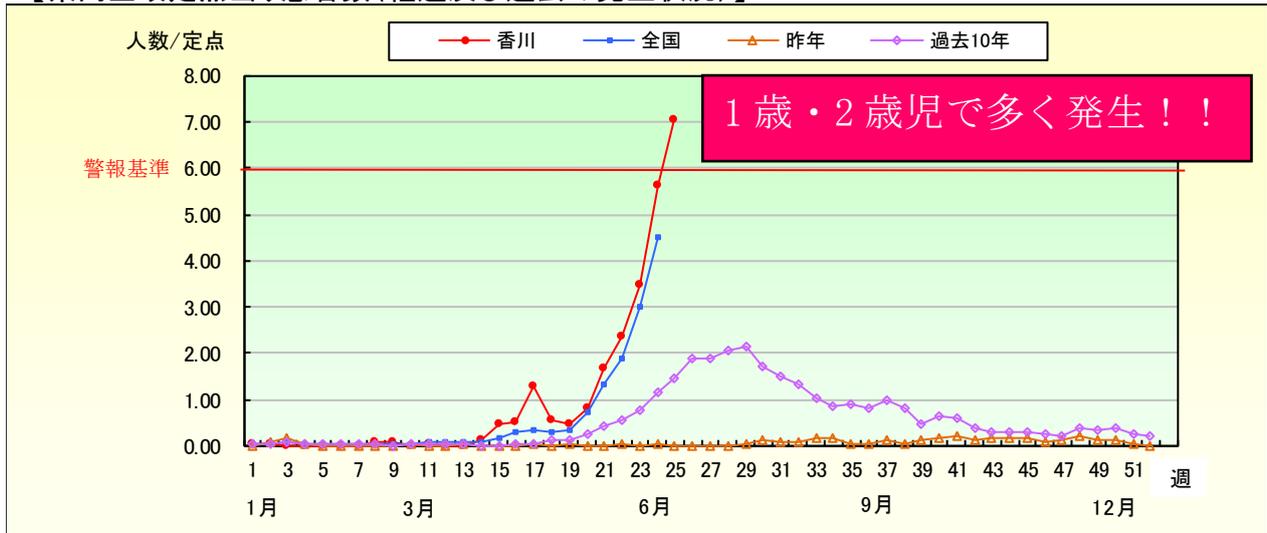


ヘルパンギーナ流行警報発令中！！

ヘルパンギーナは、夏季に流行する感染症です。香川県では、5月初旬より定点医療機関からの報告数が増加しはじめ、6月19日～6月25日の週では、1定点あたりで、7.04人となり警報レベル（1定点あたりの患者数6.0人）を超えました。今後、さらに流行する可能性がありますので注意が必要です。しっかりうがいと手洗いをするなど感染予防に努めましょう。

【県内全域定点当り患者数(経過及び過去の発生状況)】



○ヘルパンギーナとは？

発熱と口の中の粘膜にあらわれる水泡性の発疹を特徴とし、ウイルスが原因となって引き起こされます。乳幼児を中心に夏季に流行する、「夏風邪」の代表的な感染症です。

○感染経路は？

ウイルスが含まれた咳やくしゃみを吸い込んだり、手についたウイルスが口に入ったりすることで感染します。

○潜伏期間と症状は？

2～4日間の潜伏期間を経て、突然の発熱に続いて咽頭熱が出現します。口腔内の痛みのため不機嫌や、哺乳障害、経口摂取不良を起こし、乳児では脱水症を引き起こすこともあります。発熱は通常2～4日で下がり、やや遅れてのどの痛みも消失します。

治療は、それぞれの症状に対する対症療法が中心です。

まれに、髄膜炎や急性心筋炎などの合併症を引き起こすおそれがあるので、頭痛・吐き気などの症状があったら、できるだけ早くかかりつけのお医者さんに相談してください。

予防のポイント

☆ うがいや、石けんと流水でしっかりと手洗いをして、タオルの共用は避けましょう。

☆ 症状がなくなっても2～4週間の長期にわたり、便からウイルスが排出されますので注意しましょう。

